いわて海洋研究コンソーシアム
令和８年度第２回研究者交流会

＜趣旨＞

いわて海洋研究コンソーシアムでは、参画機関が実施する研究プロジェクトの効果的な推進と、機関相互の連携強化を目的として、研究者交流会を開催しています。
今年度第２回目となる研究者交流会は、「令和８年度三陸海域研究論文知事表彰」表彰式に引き続き開催します。今回は、過去に岩手県三陸海域研究論文知事表彰を受賞された研究者をお招きし、現在取り組まれている研究活動や研究成果についてご紹介いただきます。
受賞者のその後の活躍や研究の発展に触れるとともに、コンソーシアム参画機関の研究者と受賞者の交流を深め、新たな連携や研究展開のきっかけとなることを目指します。

＜概要＞

日時：令和８年12月21日（月）15:45～17:00
場所：エスポワールいわて　３階 特別ホール　（岩手県盛岡市中央通1-1-38）
　　※表彰式は同会場で14:30～15:30に開催します
次第（案）：
・開会
　講演「三陸海域に来遊するウミガメ類の生態学的研究」
　　東京大学大気海洋研究所　福岡拓也氏
　講演「大槌町船越湾で実施してきた三陸ワカメ研究」
　水産研究・教育機構　筧茂穂氏（2016年度一般の部　岩手県知事賞受賞）
・講演「岩手県三陸の海の微生物が切り拓くバイオプラスチックの合成と分解研究」
　岩手大学農学部　山田美和氏（2018年度一般の部　岩手県知事賞受賞）
・総合質疑
・閉会

＜懇親会＞

交流会終了後、エスポワールいわて３階和室にて（会費6,000円）

＜参加申込＞

下記URLからご登録ください
https://forms.cloud.microsoft/r/TBBXmJmyMw

＜お問い合わせ先＞

事務局担当　岩手大学釜石キャンパス　丹野
0193-55-5691、kamaishi@iwate-u.ac.jp

以上

【講演概要】

「三陸海域に来遊するウミガメ類の生態学的研究」

ウミガメと聞くと多くの人は温暖な海域の動物を連想するだろう。実際、彼らが産卵のために上陸するのは主に南日本の砂浜である。三陸海域はそこから数百 km 以上も北に位置するにも関わらず、ウミガメが時折定置網などで混獲されることが地元漁業者の間で知られていた。私たちは 2005 年から三陸海域におけるウミガメ類の混獲調査を開始し、海水温が比較的高い夏の期間限定で主にアカウミガメとアオウミガメという 2 種類のウミガメがやって来ることを明らかにした。本発表では、アオウミガメの基礎生態研究の成果を報告した 2015 年の本表彰の後に、三陸海域のウミガメ研究にどのような進展があったのかを報告する予定である。

「大槌町船越湾で実施してきた三陸ワカメ研究」

“秋季におけるワカメ養殖場への栄養塩供給予測”で平成 28 年度岩手県三陸海域研究論文知事賞を受賞した以降も大槌町船越湾を中心に三陸ワカメに関する研究を続けている。まず、この予測に用いたプログラムを岩手県水産技術センターに移管し、継続的に運用できる体制を整えた。現在も予測情報が同センターから公表されている。また、ワカメ養殖場における栄養塩濃度をリアルタイムで取得するブイを開発し、得られた情報をスマホアプリでワカメ養殖業者に配信している。さらに、ワカメの生長モデルも開発し、気候変動に伴う水温や栄養塩環境の変化が将来のワカメ養殖にどのような影響を及ぼすか評価した。現在はワカメ養殖場における適正養殖量の推定やその将来予測を行っている。

「岩手県三陸の海の微生物が切り拓くバイオプラスチックの合成と分解研究」

我々は岩手県沿岸から単離した微生物を利用し、海藻を原料としたバイオプラスチックの微生物合成と、自然環境中から単離した微生物による生分解性プラスチックの分解機構解明に取り組んだ。前者では、海藻由来のマンニトールやアルギン酸を利用してポリヒドロキシアルカン酸（PHA）を合成する微生物を発見し，特に廃棄コンブから PHA を合成できる好塩性細菌の遺伝子組換え系を構築した。後者では、陸や海洋環境から単離した微生物より、ポリアミド 4（PA4）を分解する新規酵素を特定し、その分解機構と構造的特徴の一端を明らかにした。これらの成果は、未利用バイオマスの有効利用と生分解性プラスチックの環境中での挙動解明に貢献すると期待できる。

【講師紹介】

東京大学大気海洋研究所　海洋生命科学部門　助教　福岡拓也氏

（2015 年度学生の部　岩手県知事賞受賞）



東海大学の学部生時代、「卒論でペンギンの研究ができるかもしれない」と聞いて東京大学大気海洋研究所の門をたたく。それから 15 年、ペンギンの研究は一度もすることなく、岩手県の定置網に紛れ込むウミガメの生態、特に何を食べているのかという食性調査を中心に研究している。北限のウミガメたちの生き様に興味を持っているため、最近は気候変動による海水温の上昇とともに活動範囲を北海道にまで広げようとしている。

水産研究・教育機構　水産資源研究所　水産資源研究センター　主任研究員　筧茂穂氏

（2016 年度一般の部　岩手県知事賞受賞）



1975 年三重県津市生まれ．京都大学大学院農学研究科博士課程修了後，水産総合研究センター東北区水産研究所（現在の水産研究・教育機構水産資源研究所塩釜庁舎）へ．博士（農学）．回遊モデルを用いたサンマの来遊予測，ワカメ生長モデルによる温暖化影響評価，海洋環境の変化に伴う水産資源の変動解析などに従事．気象予報士，日本さかな検定 1 級．趣味は釣り，陶芸，庭仕事，卓球，バドミントンなど．

岩手大学農学部　生命科学科　教授　山田美和氏

（2018 年度一般の部　岩手県知事賞受賞）



埼玉県出身、2010 年北海道大学大学院修了[博士(工学)を取得]。日本学術振興会特別研究員 DC2、理化学研究所特別研究員を経て 2011 年に岩手大学農学部に助教として着任。2015 年に准教授、2023 年に教授昇任、2026 年 4 月から副学長（生涯学習・情報教育担当）。専門分野は応用微生物学、バイオプラスチックの微生物による生合成や分解に関する研究を主に推進している。